

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月 1 日
平成 29 年 6 月号

野菜ニュース



いちご新品種「チーバベリー」のPRについて

流通販売課 農業ビジネス推進班
主事 加藤 由香里

千葉県が開発したいちごの新品種「チーバベリー」のデビューを契機とするPRを実施し、「いちご狩り」や「直売」を中心に認知度向上と集客増加を図りました。

1 専用ロゴマークについて

平成 28 年 9 月 15 日、愛称を「チーバベリー」に決定するとともに、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」を使った専用ロゴマークを発表しました(詳細は本誌平成 28 年 10 月号を参照ください)。

専用ロゴマークを包装容器やチラシなどへ使用する場合は、県への申請が必要です。平成 29 年 9 月 15 日の申請分までは、使用料が無償となります。詳細は、県ホームページで御確認ください。



2 お披露目式の開催

平成 29 年 1 月 12 日、「チーバベリー」のデビューに当たり、メディア関係者及び観光関係者を対象とした「お披露目式」を開催しました。



知事と愛称考案者、関係者での写真撮影

森田知事があいさつで「チーバベリー」を試食しながらPRした後、愛称考案者への賞状授与、プロモーション、「チーバベリー」の生果及び県産のいちごを使ったスイーツの試食を行いました。



3 主な参加イベント等

①チーバくんお誕生日会

生誕 10 周年を記念し、お誕生日会が開催されました。イベントにおいて、チーバベリーに関するクイズ大会や、山武市からチーバくんへチーバベリーを使用したバースデーケーキがプレゼントされるなど、ステージプロモーションを行いました。

②Yokohama Strawberry Festival 2017

横浜赤レンガ倉庫でいちごスイーツやグッズが大集合するイベントが開催されました。イベント広場において、1 日先着 50 名様にチーバベリーを配付しました。配付の 1 時間前から行列ができる程、大盛況でした。

③いちごの里さんむ S1 グランプリ

山武市特産のいちごを使用したスイーツが大集結するイベントが開催されました。千葉県ブースを設置し、チーバベリーへの応援メッセージを募集したところ、約 80 名の声が集まりました。

④「千葉県じゃらん」の発行

チーバベリーの特徴、いちご狩りの楽しみ方、県内のいちご狩り園・直売施設一覧などを網羅した紹介パンフレットを作成し、県内 JR 主要駅、県内外のイベントで配布しました。

4 反響と今後について

積極的な情報発信等で、愛称決定から現在まで、テレビや新聞など 100 件以上取り上げられました。生産者からも、「予想以上の人気で、毎日忙しい」「注文が殺到して大変」などの反響があります。

今後も、千葉県を代表するいちごとして、末永く親しんでいただけるよう、PR を実施します。

目指そう！さらに効果的で安全な土壌くん蒸

千葉県農林総合研究センター 土壌環境研究室
主席研究員 山本 幸洋

土壌くん蒸は、土壌病害虫を防除する重要な技術です。一方で、薬剤がガス化しやすいため、ほ場外への揮散が懸念されます。ここでは、ガス化した薬剤を透過しないガスバリア性フィルムで被覆することにより、揮散を低減でき、土壌くん蒸の効果も向上することを紹介します。

1 土壌くん蒸剤の揮散低減効果

ガスバリア性フィルムは、土壌くん蒸剤等のガスを透過しない特殊な素材が使用されており、既に複数の商品が市販されています。

最初に、薬剤の揮散を低減する効果を紹介します。2ほ場でクロルピクリンによる土壌くん蒸を実施し、一つのほ場はガスバリア性フィルムで、もう一つのほ場は慣行の農ポリフィルムで被覆しました。その結果、ガスバリア性フィルムで被覆したほ場の大気薬剤濃度(ほ場中央及び周囲4地点の平均)は、最高で0.76 μg/m³であり、ポリフィルムで被覆したほ場の18.6 μg/m³と比べて1/25に低減しました(図1)。このように、ガスバリア性フィルムで被覆することにより、土壌くん蒸初期の大気薬剤濃度を数十分の一に抑えることができます。なお、ガスバリア性フィルムで被覆すると、ガス抜き時の大気薬剤濃度が農ポリフィルムと比べて高くなる場合があります(図1矢印)。ガスバリア性フィルムで被覆する場合は、土壌くん蒸期間を可能な限り長くし、土壌における薬剤の分解を促進しましょう。

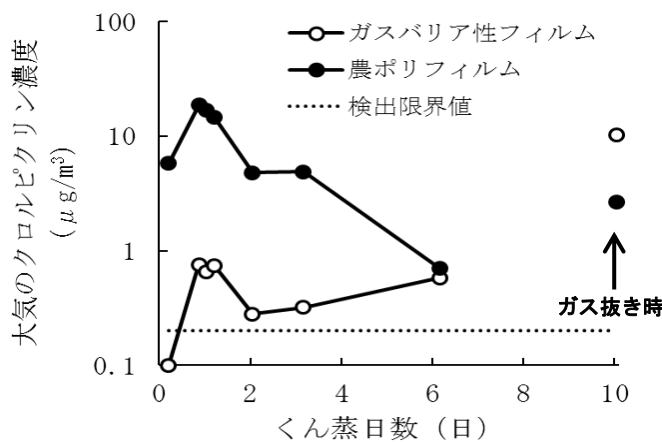


図1 ガスバリア性フィルムによる大気薬剤濃度低減効果
注1) 測定した高さは地上1.2m
2) 使用薬剤はクロルピクリンとD-Dの混合剤

2 土壌くん蒸の薬効向上効果

次に、ガスバリア性フィルムの被覆により土壌くん蒸の薬効が向上する効果を紹介します。サツマイモネコブセンチュウの被害残渣をほ場に埋め、クロルピクリンによる土壌くん蒸を行いました。ガスバリア性フィルムで被覆する区と農ポリフィルムで被覆する

区を設け、それぞれに灌注する薬剤量を3、2、1、0 mL/穴とする区を設けました。薬効は、土壌くん蒸後に回収した被害残渣を園芸培土と混合し、キュウリの幼苗を植えてその被害状況から判定しました。結果を図2に示します。根こぶ指数は、値が低いほど薬効が高いことを表します。薬剤を灌注してガスバリア性フィルムで被覆した区は、農ポリフィルムで被覆した区と比べて根こぶ指数が低く、特に薬剤量を3 mL/穴とした区においてその差が顕著でした。ガスバリア性フィルムの被覆により薬効が向上する理由は、フィルムを透過して揮散する薬剤量が抑えられ、土壌中の薬剤濃度が高くなるためです。

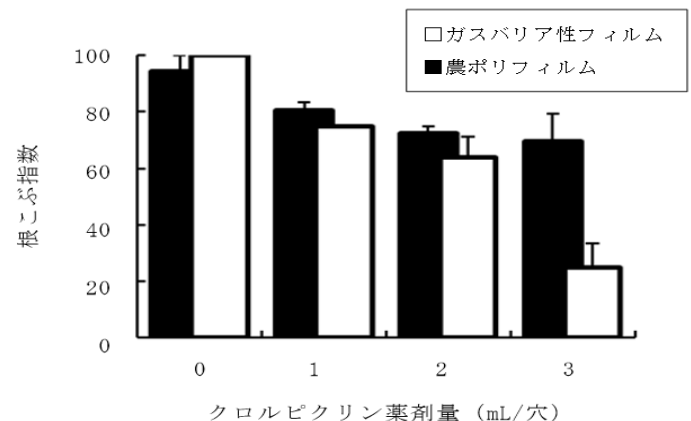


図2 被覆資材の相違によるサツマイモネコブセンチュウに対する土壌くん蒸の効果

注1) 根こぶ指数=(4×基株数+3×多株数+2×中株数+少株数)/(4×合計株数)×100
0:根こぶなし、1:わずか、2:散見、3:多、4:多かつ発根抑制あり
2) パーは標準誤差を示す
3) 農薬登録上のクロルピクリンの薬剤量は2~3 mL/穴です

3 おわりに

土壌くん蒸剤を揮散させてしまうことは、土壌病害虫に対する薬効を低下させ、場合によってはほ場周辺の住民等に迷惑をかけることにも繋がります。産地あるいは個々の経営を発展させるため、ガスバリア性フィルムを利用した「さらに効果的で安全な」土壌くん蒸に取り組んでいただければ幸いです。

本研究は環境研究総合推進費「(5-1303)日本型農業環境条件における土壌くん蒸剤のリスク削減と管理技術の開発」により実施しました。

野菜ニュース



抑制トマトの高温対策実証試験の取組について

公益社団法人千葉県園芸協会 産地振興部

(執筆者: (現)生産振興課 園芸振興室 主査 榎 晋介)

(公社)千葉県園芸協会では、主要野菜の大口需要などに対応していくため、県や全農千葉県本部、関係JA等と品目別に協議会を設置し、産地間連携によるオール千葉体制での有利販売を目指した活動を行っています。今回は、トマト協議会における抑制トマトに関する取組状況について紹介いたします。

1 取組の背景

トマト協議会の取組では、特に産地間での品質(特に着色状況)を揃え、その結果、大口需要に対応できるようロットを拡大することを全体的な目標としています。

本県産のトマトは、ほぼ周年生産されている主要品目であり、春(5~6月)と、秋(9~11月)は、各産地からの出荷がピークを迎え、首都圏市場でのシェアが特に大きくなる時期です。秋に出荷を迎える抑制作については、栽培の開始時期が盛夏にかかり収穫量や品質が不安定になりやすいことから、これまで、各産地でいろいろな高温対策に取り組まれてきたところで

協議会では、抑制トマトの安定的な生産体制の構築に向けて、主要産地や県農林総合研究センターでの高温対策の実証と、その結果を産地

間で情報共有を図るための研修会などに取り組みました。

2 実証試験の実施

試験は、被覆資材や循環扇及び換気扇の活用、栽培方法の実証、栽培初期の灌水量の調節、品種の検討など、産地により様々な実証を行い、情報共有のため、中間検討会と結果報告会を行いました。

実証の結果としては、天候の影響もあり、効果が明確になった技術は少なかったものの、関係産地が連携して取り組むことについての意義が共有され、引き続き実証を続けていくことが合意されました。

3 今後の取組について

本年度も、昨年の結果を踏まえ、遮光ネットの活用も試験に組み込み、継続して取り組んでいく予定です。



実証試験ほ場巡回の様子



中間検討会の様子

頑張る産地



収穫期情報の発信ができるびわ産地を目指して！

安房農業事務所 改良普及課
上席普及指導員 影山 浩司

安房地域の特産物である「房州びわ」は、天候により収穫時期が左右されやすく、収穫直前までその年の出荷時期が不明でした。

しかし、「ビワ収穫盛期予測式」を活用することで、4月上旬に収穫時期を予測することが可能となり、有利販売に取り組めるようになりました。

1 活動の背景

安房地域を代表する特産物である「房州びわ」は、大玉できれいな外観であることから化粧箱に入れて贈答用として販売されています。

しかし、きれいな外観の果実を栽培するためには、1果ずつ袋をかけて栽培する必要があります。

びわは冬に開花し、春先から果実が肥大して6月に収穫されますが、春先の気温や降水量により収穫時期が左右されます。

しかし、袋がかかっているため外観からは熟期の判断が難しく、生産者も収穫直前になるまでいつ収穫できるかが不明でした。

そのため、収穫できた時点から市場へ出荷することとなり、市場からは「急に出荷されても有利販売ができないので、出荷開始時期等の正確な情報を事前に提供してもらえないか」との要望が上がっていました。

その対応に繋がる技術として、農林総合研究センター暖地園芸研究所から「ビワ収穫盛期予測式」が開発されました。本予測式により、4月1日に果径を測定することで、測定した果実がいつ収穫できるのかを予測することが可能となりました。

2 産地の取組

本予測式の効果を確認するため、平成27年に若手びわ生産者で組織される「房州枇杷研究会」と連携し、現地における果径調査を実施しました。その調査で得られた果径を基に本予測式で収穫日を予測し、その結果を改良普及課で取りまとめ、収穫期情報を作

成し市場へ情報発信しました。発信した情報の精度は高く、おおむね予測された収穫日と実際の収穫日の差が2日以内でした。

また、4月中旬に情報提供が可能であることから、市場は事前に販売体制を整えることができるようになり、高い評価を得ることができました。

そこで、28年度も引き続き現地調査及び情報発信を実施したところ、4月中旬には精度の高い収穫期情報が発信できるようになり、市場からも継続要望があり、29年度も実施していくことになりました。

3 今後の展望

本取組は平成27年度から開始され今年で3年目となります。現在「収穫盛期予測式」は県関係機関しか使用ができませんが、今後は、本予測式を一般配付する見通しです。そうなれば、より多くのびわ生産者が自分のほ場で調査を行い、自分で収穫時期を予測できるようになることで、更に精度の高い予測情報の発信ができます。

また、「房州びわ」は市場出荷だけでなく、地元直売所や庭先販売などの地元での販売も盛んなため、市場以外にもびわの収穫時期の情報は広く求められています。

自分で収穫予測ができるようになれば、その結果を基に自分の顧客にびわ狩りや販売時期等の情報発信が可能となります。収穫予測を取り入れることで顧客満足度の高い直売経営ができるようにしたいと考えています。



化粧箱に箱詰めされたびわ



収穫直前の果実

平成 28 年度における農地中間管理事業の実績及び今後について

公益社団法人千葉県園芸協会
農地部 (農地中間管理機構)

農地中間管理事業は皆様の御理解及び御協力により着実に実績を残しております。また、政策としての重要性もより増しております。4 年目を迎える本年度につきましても皆様が御活用できますように、更なる事業推進を図っていきますので、よろしくお願ひします。

1 平成 28 年度の実績について

3 年目を迎えた平成 28 年度の農地中間管理事業の実績は、全県で 7 1 6 ha を借り受け、そのうち 5 9 6 ha の貸付けが年度内に行われました。前年度の実績と比較すると、借受けが約 1 割減、貸付けが約 3 割減となりましたが貸付面積のうち 4 1 3 ha が新たに担い手への貸付けで、前年度の 3 4 6 ha より増加し、担い手への集積が進んでいます。

また、平成 27 年度は全体面積の約 8 割が地域でまとまって取り組んだ結果でしたが、平成 28 年度は約 5 割と、個別案件の割合が増加しており、個々の出し手農家の皆様に対しても周知が進んでいる結果であると考えられます。その要因の一つとしては県内 10 の農業事務所に配置している機構支部職員を 5 名から 7 名に増やし、各地域における個別案件に対してよりきめ細かな対応ができるような体制にした結果と思われる。

なお、本年度は更に 3 名増加させ、10 名体制でより現場に密接した対応を進めていきますので、御気軽に御相談ください。

2 今後の農地中間管理事業について

(1) 更なる集積・集約化のツールとしての重要性が増しています。

現在、日本の農業は高齢化の進行などによる担い手の減少や耕作放棄地の増加により、将来にわたって安定的な地域農業の維持が難しい状況となっています。

また、集積(規模拡大)を進める担い手が増加していますが、集積だけではコスト削減に限界があり、集約を進める必要があります。

農地中間管理事業は農地の集積だけでなく集約も進めるための一つの重要なツールです。本事業は

国において重要な政策として位置付けられており、他の事業に対しても影響を与えています。国では実績により各都道府県の順位付けを行い、他の補助事業を活用する際のポイントに対して加算を行っていることや、本事業を活用することにより農地に簡易な整備ができる事業(整備に対して半額程度の補助)などを設けています。また、現在、国では担い手への集積・集約を進めるため、機構が借り入れた農地(一定のまとまりがある)については農地所有者の費用負担のない新たな土地改良事業の仕組みを検討しています。このように今後は本事業が農地の集積・集約を行う際にますます重要なツールとなりますので、皆様の更なる御理解及び御活用を進めていきたいと思ひます。

(2) 機構集積協力金の変わり目の年となります。

個々の出し手農家の皆様や地域でまとまった形の皆様が農地中間管理事業を利用していただいた場合、要件が合えば補助金(機構集積協力金)の交付を受けることができます。本年度は国が示す単価の変わり目の年で、平成 30 年度は減額となる予定です(一部補助金は変更のない場合があります)。本年度の補助金の交付を受ける場合は機構への貸付けが 10 月までに行われることが必要ですので、お早めの御相談をお願いします。

問合せ先

- (1) 公益社団法人千葉県園芸協会 農地部
TEL : 043 (223) 3011
E-mail : nouchibu@chiba-engei.or.jp
- (2) 農地が所在する市町村の農政担当課
- (3) 最寄りの農業事務所企画振興課

平成 29 年度千葉県立農業大学校 就農準備講座(後期)の募集について

1 対象

将来、県内で農業に取り組もうとしている方を対象に土曜日を利用して基礎的な農業知識の習得と農作業を体験するコースです。

2 研修期間、研修回数及び募集人員

- (1) 研修期間 平成 29 年 9 月 9 日(土)～10 月 21 日(土)
- (2) 研修回数 毎週土曜日に開催 研修回数 7 回
- (3) 募集人員 15 名

3 応募受付期間

平成 29 年 7 月 24 日(月)～8 月 4 日(金)(消印有効)

4 応募方法

所定の願書などの必要書類一式を提出する。

※願書などは、ホームページからダウンロードするか、82 円切手を貼った返信用封筒を同封の上、問合せ先に請求してください。

5 選考方法

書類審査を行い、受講者を決定する。

6 受講料

無料

(傷害保険料、校外見学費用等は別途実費が必要)

7 提出・問合せ先

〒283-0001 東金市家之子 1059
 千葉県立農業大学校 農業研修科
 電話 0475-52-5140
 FAX 0475-54-0630
<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>

廃プラビニール回収督励

生産振興課園芸振興室

使用済みの農ビ・農ポリは、市町村の廃プラスチック対策協議会を通じて回収・リサイクルが行なわれています。

回収された農ビは粉碎・洗浄・加工され、プラスチック製品原料(製品)として販売されます。

特に、ゴムは処理工程で除去することが難しく、製品にまで混入すると販売ができなくなってしまう。

排出物に、ゴム等が混入することのないよう皆さまの御協力をお願いします。

搬入時の注意点

1. 異物混入をなくしましょう。
2. 梱包の規格を守りましょう。
3. 洗浄・土落としを丁寧にしましょう。

千葉県野菜品種審査会の開催について

生産振興課園芸振興室

千葉県野菜品種審査会は、県内の野菜産地に適した優良品種の選定と、野菜種子の素質改善を通じ、県産野菜の品質向上と野菜産地の振興を図ることを目的として昭和 27 年から開催しています。

○第 65 回 千葉県野菜品種審査会の開催計画

平成 29 年度は、未成熟とうもろこし、こかぶ、ほうれんそう、こまつなの 4 品目を対象に実施します。審査会の開催場所、審査時期等は以下のとおりです。

第 65 回千葉県野菜品種審査会開催計画

品目	作型	は種期	審査時期	ほ場地	担当機関
未成熟とうもろこし	トンネル栽培	3 月上旬	6 月上中旬	館山市	農林総合研究センター 暖地園芸研究所 野菜・花き研究室
こかぶ	秋どり栽培	9 月下旬	11 月中旬	香取市	農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所 畑地利用研究室
ほうれんそう	秋冬どり栽培	10 月上旬	12 月中下旬	野田市	東葛飾農業事務所
こまつな	冬どり栽培 (露地)	11 月上中旬	1 月中旬	千葉市	農林総合研究センター 野菜研究室